

日下部太郎 にしかた たろう 福井藩士、官費海外留學生第一號。弘化二年六月
 六日越前國福井城下生れ、明治二年二月十二日歿（一八四一七〇）。講睦こうもく
 肥とよ、舊名八木八十八、のち本姓日下部に復し太郎と改稱。號東洋。藩
 費明道館に學び、安政二年學業優秀を以て褒賞を受く。慶應元年藩命
 により長崎留學、荷禮之の英學塾濟美館に入り、フルベツキに就き英
 學を修む。二年藩費を以てシヤワ經由でアメリカに渡り、ニエージヤ
 ージ州のラトガース大學に入學。明治二年新政府より改めて官費留
 學を命ぜられると、翌年肺結核のため卒業二カ月前に客死。在學中、
 常に首席を通じ、四年の課程を二年で済ませる程の成績で、同大學は
 その死を惜んで盛大に葬儀を営み、且つ墓碑を建て、卒業を認められた。
 郷里福井を出立の際に詠じた絶句一首が遺る。へ半肩行李雪郷身、好よし
せいほういむがつてひょうしんきと 嚮むか西方獨周津、
ほうはつばんいこもからふきやめよ 蓬髮及蠻衣請休笑、
くわうこんばんくわいすこれはんびとや 挽回皇國是河人。

永井環著 にがひら 新日本の先驅者日下部太郎 にしかた たろう（昭和五年十月五日自刊、福井評論

社）がある。

